

## 先端研究拠点事業（国際戦略型）の事後評価の実施について

### 1. 趣旨

#### (1) 「先端研究拠点事業」の目的

先端研究拠点事業は、我が国の大学等学術研究機関が、先端的研究課題に取り組むにあたり学術先進諸国の研究機関と進める研究交流活動を支援することにより、我が国と交流相手国における中核的研究拠点を繋ぐ多国間研究交流ネットワークの構築・強化を図るとともに、若手研究人材の育成に貢献することを目的とする事業です。

本事業においては、我が国と交流相手国の拠点機関同士の協力関係に基づく双方向交流として、「共同研究」、「セミナー」、「研究者交流」を効果的に組み合わせて実施するものとします。

なお、本事業による支援期間終了後も、拠点機関においては、当該分野における中核的な研究交流拠点として、学術国際交流の発展と若手研究人材育成に向け継続的な活動を実施することを期待されています。

#### (2) 事後評価の目的

先端研究拠点事業は、国際的研究交流活動への支援を行うものとしては比較的大規模な事業であること、また、事業開始当初から、本事業への採択は高い競争率を保つなど研究者からの関心も非常に高いことから、事業運営の透明性・公正性が強く求められており、事業の実施状況及び成果についても、可能な限り公表することが必要とされています。

このため、募集要項に示されているとおり、本会では、実施期間が終了した課題について、事業によって得られた成果を明らかにするため、事後評価を実施します。

評価資料及び本会からの評価結果は、原則として公開します。

#### (参考) 先端研究拠点事業実施要項（一部抜粋）

第7条 本事業は、別に定める方法により、各年度、中間年度及び終了時に評価を行うものとする。
---

## 2. 事後評価の方法及び評価項目

### (1) 評価の方法

事後評価は、日本側拠点機関から提出される評価資料に基づき、まず、3名の国際事業委員会書面評価員により、学術的な観点から書面評価を行い、その後、国際事業委員会における合議により総合的な評価を行います。

### (2) 評価項目

各評価項目について、以下の観点に基づき、4段階評価で行います。

#### ①これまでの交流を通じて得られた成果

- ・日本側拠点機関を中心とした有機的かつ継続的な国際学術交流拠点が構築されたか。
- ・先端的かつ高度に学術的価値のある成果をもたらしたか。
- ・次世代の中核となる若手研究人材の育成について、方針や手法は適切であり、十分な成果をもたらしたか。
- ・日本への先端的かつ国際的学術情報の収集整備に貢献することができたか。
- ・社会的理解や社会的認知を促進するための手法は適切であり、社会的理解や社会的認知は進んだか。

#### ②事業の実施状況

- ・拠点機関ひいては日本のプレゼンスを高めるための取り組みが、拠点機関全体として、戦略的かつ計画的になされたか。
- ・拠点機関及び協力機関において、適切な運営体制・国内外の連携体制がとられていたか。

#### ③今後の研究交流活動

- ・当該研究交流課題の今後の研究協力体制の維持・発展に向けた展望について、事業終了後においても継続的に代表性を維持することが期待できるか。